

新
修

舞鶴市史編さんだより

第2号

発行日／令和7年
3月1日

市史編さん実施計画に基づき、具体的作業を進めていくため、市史編さん委員会に分野ごとの5つの専門部会(考古・古代・中世、近世、近代、現代、文化遺産)を設置し、市史の刊行に向けた進め方やその構成などについて協議するとともに、資料などの調査に取り組んでいるところです。古文書調査には、市民の皆様にもご協力いただいています。

また、「身近なことから舞鶴の歴史を考える」をテーマとした地域史講話を2回開催し、延べ94人の参加がありました。

7年度は、各分野においてさらに調査を進めるとともに、引き続き、市史編さんだよりの発行や地域史講話の開催などを通じて、市民の皆様への情報発信や情報共有の充実に努めていきたいと考えています。



第1回 地域史講話の様子



“地名について考える”

舞鶴市市史編さん委員会

副委員長 加藤 晃

地名の名の由来を尋ねると、多くの角度から考察を進める必要があり、簡単にわかるものばかりではない。今私が住んでいるところは引土という。文字にこだわれば引つ張る土の意となるが、訳が分からない。今は広域地名になっているが、元地は西方の山に囲まれた平地で、確か以前そこは湿地で、土を引いて造成した所だったという。それならわかる。そこは地域の主要な街道があったが、海岸にもっと便利な道ができて、今は使われていない。

私が住んでいるところの町内名は折原という。原が折れるということはない。下り原の意で、西舞鶴駅前に近いところの地名である。そこが地名ができるずっと昔の時代にどんなところだったかはわからない。幾つもの道が交錯する繁華なところではあった。そういうところでは道が下りたり上がったりにすることに関心がもたれたことだろう。

私が住んでいるのは舞鶴市である。明治のころは舞鶴町といった。明治に入って藩名が廃止され

たので、田辺という地名はなくなり、代わりに舞鶴という町名が作られた。なんでも田辺城の様子からつけたという。白壁に覆われた城のありさまが鶴が舞うようだからという。美しい名称だから文句を言うつもりはないけれど、たくさんの住民がいる中で、城の様子を住所地名にするなんてとも思う。元の田辺もどこにでもある地名だから、代わりにするわけにはいかないだろうと思う。

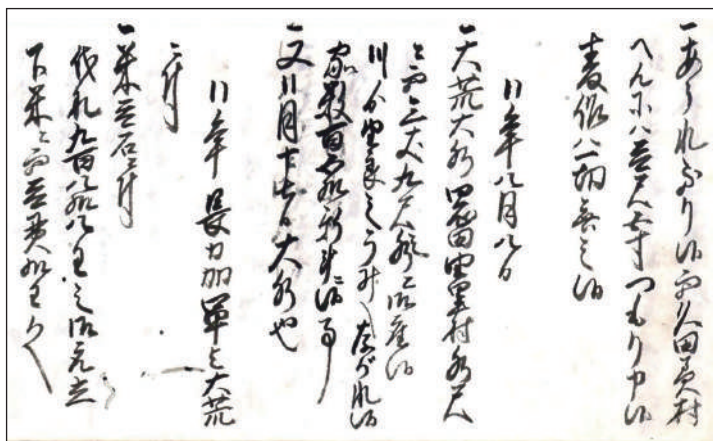


引土・円隆寺の門前付近

❖ 最近の古文書調査から ❖

～ 150軒が流される・慶応2年(1866)の洪水～

昨年、舞鶴市久田美の真下様から舞鶴市にご寄贈いただいた古文書の中から災害の記録を取り上げてご紹介します。



古文書原文

上段には古文書の写真(部分)、中段には翻刻(ほんこく：そのまま活字にしたもの)、下段には現代語訳を掲載しました。

古文書の記録は慶応2年(1866)4月19日の記事です。この年は4月19日(太陽暦では6月4日)にあられが降り、舞鶴市の久田美村では1尺5寸(45cm)も積もって麦作はダメになったと記しています。

また、同年の8月8日(同9月16日)には大洪水がありました。

文中の「水尺」とは目盛りを刻んだ標柱を水中に建てて水の高さを計るものですが、岡田由里村では3丈9尺(11.7m)もの水位に達し、150軒もの家が由良の海に流れたと記しています。また同月17日にも大水が出たとしています。

この年は幕府による第2次長州征伐の影響で米価が高騰していたとも記しています。

翌年には、江戸幕府が滅亡することになりますが、舞鶴の庶民にとっては人災と天災が重なった大変な年だったようです。

(HK)

一 大荒れ大水岡田由里村水尺 二丈三丈九尺之水二御座候 川より由良之うみへながれ候 家数百五拾軒斗二候事 又同月十七日大水也	一 同年八月八日	一 あられが降り候て久田美村 へんにハ壹尺五寸つもり申候 麦作ハ一切無之候	(慶応二年四月十九日)
一 同年長州軍と大荒れ二付 米壹石二付 代札九百八拾八匁之御取立 下米二て壹貫拾匁かへ	一 同年八月八日	一 あられが降り候て久田美村あたりには 一尺五寸(四五寸)つもりました 麦作は一切ありません	(慶応二年四月十九日)

翻刻

一 大荒れ大水で岡田由里村の水尺にて 三丈九尺(一一・七ト)の水でした 川から由良の海に流れた家数は 一五〇軒ばかりありました また同月一七日大水がありました	一 同年八月八日	一 あられが降り候て久田美村あたりには 一尺五寸(四五寸)つもりました 麦作は一切ありません	(慶応二年四月十九日)
一 同年、長州軍と戦争があったので 米一石につき 代札九百八拾八匁のお取り立てです 下米にして一貫十匁替	一 同年八月八日	一 あられが降り候て久田美村あたりには 一尺五寸(四五寸)つもりました 麦作は一切ありません	(慶応二年四月十九日)

現代語訳

舞鶴の記憶 [2]

～舞鶴築港記念碑と舞鶴港の発展～

西地区の国道27号線大手交差点から西へ約500メートル、第2ふ頭口を北に折れた舞鶴市西消防署の裏手にある島崎公園に「舞鶴築港記念碑」があります。石碑は台座を含めた総高約4.5メートルの大きなもので、石材は城屋奥山産の“日浦石”を使っています。元々昭和24年に西公会堂前（現舞鶴西総合会館）に建てられ、昭和43年に現在地に移されたものです。



島崎公園の舞鶴築港記念碑

舞鶴湾はリアス地形の特徴をもち、周囲を山々に囲まれ人字形に入り込んだ、深く波の静かな天然の良港です。

明治34年（1901）、東港に日本海側唯一の海軍舞鶴鎮守府が置かれて以来、現在に至るまで国防を担う港として発展してきました。一方、西港は明治37年（1904）に海舞鶴駅が設けられ、魚をはじめ海産物を京阪神市場に届けました。

明治41年から商港としての機能を高めるために伊佐津川と高野川間に新しい岸壁整備が進められ、大正2年（1913）に第1ふ頭が完成。

昭和4年から高野川河口の西側～大野辺海岸を埋め立て、昭和13年（1938）に第2ふ頭が完成。

国内だけでなく朝鮮半島や中国、ソ連等の対岸外国貿易が可能になりましたが、同18年に海軍管轄となり商港機能が中断しました。

戦後になると、昭和40～60年代にかけて第3ふ頭、第4ふ頭の整備が進み、同45年には舞鶴・小樽間の定期フェリーが就航しましたが、同62年東港に前島ふ頭が整備されて移されました。さらに平成7年には喜多ふ頭、同22年には舞鶴国際埠頭（和田ふ頭）が完成して、同25年には舞鶴港築港100周年を迎えました。

現在、舞鶴国際ふ頭ではⅡ期整備が進められており、京都舞鶴港は「日・中・韓・露等の人・もの・情報が交流する関西経済圏唯一の日本海側ゲートウェイ」として、さらに機能充実が図られています。

（YH）



大正2年の築港記念
全国物産博覧会ポスター



高野川河口東側に整備された第1ふ頭と
西側の第2ふ頭計画（赤線）昭和11年舞鶴町地図



戦後の西港空中写真（手前が第2ふ頭）

市史編さん日誌

令和6年（8月～）

8月1日	市史編さんだより第1号発行	
8月22～29日	古文書相談会実施（大浦・城南・加佐各地区）	
8月24・25日	真下家資料受領	
9月1～3日	引揚関係資料目録作成（駒澤大学）	
9月7日	市史編さん委員会 第1回近世部会開催 （廣瀬邦彦部会長ほか委員4名）	
9月10日	市史編さん委員会 第1回考古・古代・中世部会開催 （加藤晃部会長ほか委員4名）	
9月22・23日	安久家文書調査（京都府立大学）	
10月10日	綾部市資料館から田辺藩裁判資料を借用	
10月15日	市史編さん委員会 第1回文化遺産部会開催 （吉野健一部会長ほか委員10名）	
同	高野地区老人会地域講話（城南会館）	
10月17日	いきいきセミナー地元学講話（南公民館）	
10月29日	中浜地区今昔物語作成協力（まなびあむ）	
10月30日	祖母谷地区老人会地域講話（まなびあむ）	
11月9日	市史編さん委員会 第2回近世部会開催	
同	安久家文書調査（京都府立大学）	
同	第1回地域史講話開催 講師 市史編さん委員長 京都府立大学教授 東昇氏 演題 「身近なことから舞鶴の歴史を考える－江戸時代の狐狩・いさざ・看病－」	
11月23日	市史編さん委員会 第1回近代部会開催 （東昇部会長ほか委員5名）	
12月7日	女布遺跡発掘調査現地説明会開催	
12月10日	市史編さん委員会 第1回現代部会開催 （上杉和央部会長ほか委員6名）	
12月23日	市史編さん委員会 第2回考古・古代・中世部会開催	
12月24日	金村家古文書等借用	

引揚関係資料目録作成作業の様子

第1回近世部会会議の様子

女布遺跡発掘調査現地説明会の様子

令和7年（～2月）

2月15・16日	安久家文書調査（京都府立大学）
2月16日	第2回地域史講話開催 講師 市史編さん委員 文化庁文化財調査官 吉野健一氏 演題 「身近なことから舞鶴の歴史を考える2－由良川の水運・若狭湾の海運－」

[発行] 舞鶴市

生涯学習部文化振興課（市史編さん係）

〒624-0853 舞鶴市字南田辺1番地 舞鶴西総合会館2階

TEL：0773-68-9556 FAX：0773-77-1823

Eメール：history@city.maizuru.lg.jp